

気候関連財務情報開示 タスクフォース (TCFD) 実務ガイド

米国サステナビリティ会計基準審議会
(SASB) スタンドアードおよび
気候変動開示基準委員会 (CDSB)
フレームワークを使用して主要な報告書に
おける気候関連財務情報開示を促進する



Climate
Disclosure
Standards
Board





気候変動開示基準委員会 (CDSB)

Plantation Place South, 60 Great Tower
Street EC3R 5AD London, UK
+44 (0) 203 818 3939
cdsb.net

CDSB について

気候変動開示基準委員会 (CDSB) は、自然資本と金融資本を同等と見なす主要な企業情報開示モデルの、グローバルでの推進と標準化に注力する9つの企業および環境NGOで構成されている、2007年に設立された国際コンソーシアムです。CDSBは、環境および気候に関する情報を財務情報と同じ厳密さで報告するフレームワークを企業に提供することにより、その使命を果たします。CDSBの活動はひいては、意思決定に有益な環境および気候情報を企業の主要な報告書を通じて投資家に提供し、資本配分の効率化を促進します。規制当局もコンプライアンスに対応した資料による恩恵を受けることとなります。総じてCDSBは、経済システム、社会システム、環境システムの持続可能性の向上に貢献することを目指しています。



サステナビリティ会計基準審議会 (SASB)

1045 Sansome Street, Suite 450
San Francisco, CA 94111 USA
+1 (415) 830-9220
sasb.org

SASB について

サステナビリティ会計基準審議会 (SASB) は、持続可能性による財務的影響に関して、企業と投資家を結び付けることを目指しています。SASBは、2011年に設立された独立する基準設定機関であり、その使命は、投資家にとって重要な持続可能性に関する要因を世界中の企業が特定、管理し、報告を手助けすることです。SASBスタンダードは、透明性がありかつ公式な文書化プロセスの一環として、企業と投資家およびその他の市場参加者から得た幅広いフィードバックに基づいて策定されています。SASBスタンダードは、77の業界ごとに、最も大きな財務的影響を与える可能性が高い持続可能性要因へ焦点を当てることにより、投資家と企業が業界内で企業間の実績を比較することを可能にしています。

© 2019 SASB財団 (「SASB」) および気候変動開示基準委員会 (CDSB) の代理である CDP Worldwide。

無断複写・複製・転載を禁じます。SASBまたはSASB財団、CDP Worldwide、またはCDSBは、本文書またはその一部の内容を使用もしくはは依拠することによって生じた、または本文書もしくはその一部の内容を使用もしくはは依拠することに関連した請求に対し、一切の責任を負いません。

目次

- 1 エグゼクティブサマリー

- 2 **パート1: 概要**

- 3 はじめに
- 4 TCFD提言の概要
- 4 SASBとCDSB:実務のためのツール

- 6 **パート2:実務を開始する**

- 7 TCFD実務を開始するにあたって
- 7 効果的な開示のための基礎固め

- 11 **パート3:グッドプラクティスの開示**

- 12 TCFDに沿ったサンプル開示
- 16 情報開示例について
- 17 中核的要素1:ガバナンス
- 23 中核的要素2:戦略
- 36 中核的要素3:リスク管理
- 47 中核的要素4:指標と目標
- 56 情報開示例(サンプル):重要な教訓

- 58 **Part 4:将来に向けて**

- 59 結論
- 61 用語集
- 61 参考文献

エグゼクティブサマリー

気候関連財務情報開示タスクフォース（以下TCFD）は、2017年6月、気候関連情報について、一貫性、比較可能性、明確性、信頼性を持つ企業開示を行うための最終的な提言を発行しました。この提言は、投資家・貸付業者・保険引受人が、情報に基づき意思決定および資本配分を支えようと考えられます。発行から1年半以上を経た現在、617を超える組織¹がTCFDへの支持を公表していますが、この提言を気候関連の開示に向けて使用している組織はそれよりはるかに少ないようです。

市場参加者は、こうした実務上のギャップを説明する中で、企業が原則に基づく提言を実行し、推奨されている11項目を主要な報告書の中で開示するための実用的なガイダンスが必要であると指摘しています。サステナビリティ会計基準審議会（以下SASB）、気候変動開示基準委員会（以下CDSB）という、確固たる地位を築いている2つの組織と、TCFDと整合する形で厳格に策定された報告ツールは、実用的なガイダンスを提供する上で独自の役割を果たしています。

この文書は、気候関連ツールと報告の実務が成熟し続ける中で、CDSBおよびSASBがTCFDに焦点を当てて今後数カ月から数年の間に策定し、利用可能としていくための一連の実用的リソースにおける最初の文書です。

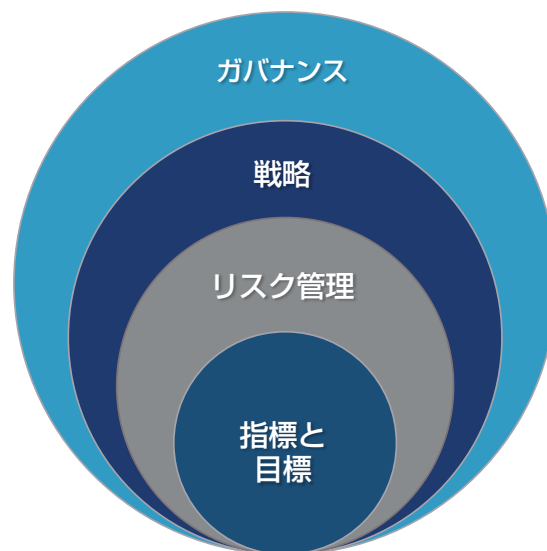
本文書は、“ハウツーガイダンス”を提供することにより、SASBおよびCDSBが有する、市場での検証済みのフレームワーク・基準・リソースを通じて、企業がTCFDの実務および報告における堅牢性・一貫性・比較可能性・有用性を向上させる一助となることを目的としています。

組織は、気候関連リスクおよび機会を管理する高度なアプローチを持っているかどうか、あるいは取り組みに着手したばかりであるかどうかにかかわらず、本ガイダンスを使用し、意思決定を向上させ、市場のレジリエンス（回復力、強靭性）を高め、より持続可能な経済成長を促進することができます。

本ガイダンスは以下の構造に従っています。

- **概要**：TCFD、SASB、CDSBの概要と、企業が気候関連情報を効果的に開示するための動機
- **はじめに**：企業が気候関連情報の効果的な開示に向けて下準備をするのに役立つ主なアクションステップ
- **グッドプラクティスの開示**：TCFD提言の4つの中核的要素とそれらの開示（図1参照）について企業に実務的に理解してもらうための開示例とそれに関連する議論
- **今後の見通し**：CDSBフレームワークとSASBスタンダードがTCFD実務における明確なソリューションであることのサマリーと、将来の重点分野。

図1.TCFD提言の4つの中核的要素



¹ 2019年3月現在。 <https://www.fsb-tcfid.org/tcfid-supporters/> を参照